

## 米軍大型ヘリ またも窓落下事故

台風 15 号は千葉、神奈川、東京などに大きな被害をもたらしたようです。みなさんのご家族、家屋は大丈夫でしたか？

ここ沖縄では、台風 13 号が宮古島で、観測史上最も強い最大瞬間風速 61 メートルであったことが報じられています。雨量も 9 月としては史上最大の 724 ミリを記録し、2 万戸の停電と数人が負傷しました。平和フォーラム沖縄事務所のある名護市でも、強い風と豪雨が街を叩きつけていました。このところ、九州北部や、中国地方で集中豪雨による大きな被害が頻発しています。沖縄や奄美近海でも台風の発生があるのは、海水温が異常に上昇していることが原因であるようです。「地球温暖化」の対策が急がれますが、日本には 50 基を超える石炭を使用した火力発電所が稼働しています。安倍政権は再生可能エネルギーへの転換に積極的ではなく、政権、自公政党の責任は重大だと考えます。

### 重さ 1 キロの窓が落下

さて、今回の事故は 8 月 27 日午後 5 時半頃、沖縄本島東海岸沖 8 キロに重さ 1 キロの窓を落下させたものです。事故を起こしたのは、これまでたびたび重大事故を起こしている米軍大型ヘリ CH53E です。もしこれが、地上であつたら重大な事故となっていたことは明らかです。今回は海上で、県民の命に関係はなかったと済ますわけにはいきません。事故発生から 2 日間も情報連絡せず事故を放置してきた米軍に対して怒りがこみ上げてきますし、沖縄防衛局も落下場所さえ把握していない体たらくです。

この CH53E 大型ヘリは、2017 年普天間第 2 小学校に操縦席の窓枠（重さ 7.7 キロ）を落下させています。この機は運用開始から 40 年以上が経過し老朽化しているうえ、整備体制の不備もあります。事故があるたびに指摘されているにもかかわらず、「訓練重視」で県民の命を軽視しています。いつ重大事故が起きるかわからないなかで、県民は常に不安を抱いて生活しています。県民の不安を解消させるのには、米軍機の飛行を中止させるしかありません。しかし、日本政府は米軍に対して国の威信をかけて抗議することもしません。あろうことか、かつての国会で「(米軍事故に対して) それで何人死んだんだ」と野次を飛ばす、内閣府副大臣で自民党の国会議員がいました。口を開けば「沖縄によりそう」という安倍首相。本当に県民によりそうつもりなら、事故の際には毅然として、県民の命を守るということはこういうことだと、県民に分かるような対応をしてもらいたい。

今回の事故機も、原因究明がなされないまま、9 月 7 日には飛行が再開されています。平和フォーラム沖縄事務所として飛行再開に強く抗議します。

### 最近の危険な訓練

ここ最近起きている、危険な訓練について報告します。

- ①うるま市津堅島沖でのパラシュート夜間降下訓練（9 月 5～7 日）
- ②嘉手納基地内でのパラシュート降下訓練（9 月 5 日）
- ③宜野座村城原地区近くでの夜間ヘリ飛行訓練が多発。2018 年度では夜 10 時以降の訓練が 578 回にも達したことが記録されています。
- ④米軍普天間基地で深夜の訓練が四夜連続（8 月）
- ⑤F35 戦闘機 10 機が、岩国基地から普天間基地に相次いで飛来し、大謝名町上空で 100 デシベルを超す爆音をまき散らす（4 月）
- ⑥国頭村安田では返還された跡地に米軍ヘリが着陸訓練（9 月）

米軍基地がある限り訓練は続きます。

米軍基地に断固反対し、撤去させるよう行動に参加していきます。